

あますい 検索

尼崎市水道通水100周年記念企画

尼崎市水道「苦あり苦あり」な歴史講座 第1回

こうして生まれた尼崎市の水道

平成30年10月1日で尼崎市に水道ができて100年になります。現在のように安全で安心して使える水道になるまでには、大変な苦難の道のりがありました。この尼崎市水道100年の歩みを3回に分けて皆様にご紹介します。



水を飲むのも命がけ!?



当時の尼崎は、ごく狭い低湿な地域だったため周囲に堤防をつくり、川の水や海の水の浸入を防いでいました。でも、多くの井戸には塩分が含まれており、人々は井戸水を砂でろ過して使ったり、干潮時に川の水などを汲んで使っていました。そのため、尼崎は県内でも最悪の伝染病流行地とされ、近代工業化を進めるためにも公衆衛生の改善が急がれていました。



明治時代に、尼崎に多くの人が集中した結果、コレラなどの伝染病が慢性化してしまっていたんだよ。

尼崎に水道を、でもお金がない!!



明治時代の尼崎町でも水道をつくらうという動きはありましたが、水道をつくるには多くのお金がかかるため、当時の「町」ではこのお金を負担することができませんでした。そこで、水道創設にかかる費用を国に負担してもらうため、大正5(1916)年に尼崎町が立花村の一部と合併し尼崎市となり、「市」として国から水道施設の建設費の一部を補助金としてもらいました。



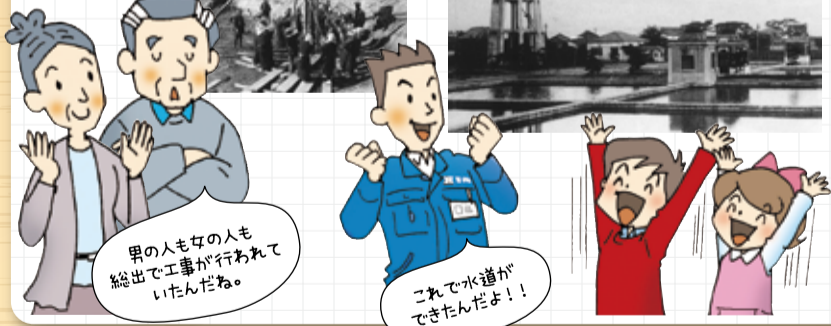
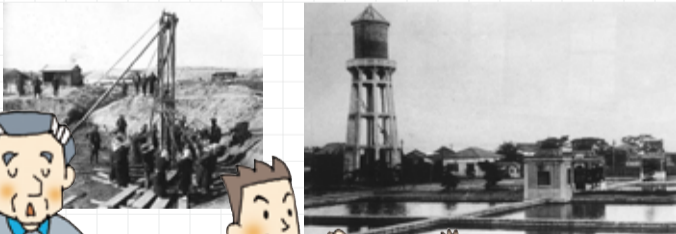
こんなにもお金が必要だったんだね!!

創設事業計画

取水地点	流水豊富で水質も清浄であった神崎川と藻川の合流点と定める。
施設能力	給水人口3万人に対し、1日最大給水量3,750m ³ 。
取水施設	ろ過池、配水ポンプ等の増設で、給水人口5万人、1日最大給水量6,250m ³ を給水できる規模。
事業費	431,300円を予定。(なお、最終総事業費は623,653円35銭)

ついに完成、尼崎市水道!!

そして、大正7(1918)年10月1日、ついに通水を開始しました。当時は、神崎川と藻川の合流地点から取水しており、神崎水源地(現在の神崎浄水場)内には、全国的にも例を見ない高さ約36mの西欧式配水塔が建設され、尼崎名物の一つとなりました。全国的には35番目、県下では神戸市に次いで2番目の水道が尼崎市に誕生しました。

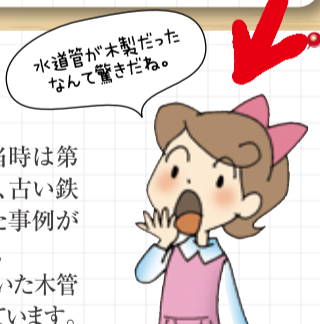


男の人も女の人も総出で工事が行われていたんだね。

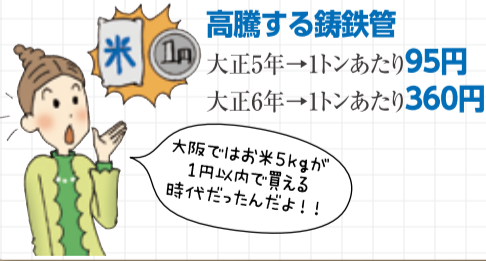
これで水道ができたんだよ!!

困った、鉄がない!!

水道の創設には大量の水道管が必要でした。当時は第一次世界大戦の影響で鉄鋼価格が高騰したため、古い鉄管を購入して使用したり、全国的にもまだ使用された事例がほとんどなかった「木管」をやむを得ず使用しました。昭和63(1988)年の水道工事の際、当時使用されていた木管が出土し、現在は尼崎市立文化財収蔵庫に展示されています。



水道管が木製だったなんて驚きだね。



高騰する鑄鉄管

大正5年→1トンあたり95円
大正6年→1トンあたり360円

大阪ではお米5kgが1円以内で買える時代だったんだよ!!



TOPIC

水道局では、通水100周年を記念して、各種記念事業を展開します。

記念誌作成



記念の切手作成(予定)



(イメージです。)

神崎浄水場開放イベント



